

令和3年度 医学部附属看護専門学校
学校関係者評価 報告書

1 目的

日本大学医学部附属看護専門学校（以下「本校という」）で実施した自己点検・評価結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、学校外の関係者による評価を行い、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、本校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として行う。

2 基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」（文部科学省：平成25年3月策定）を参照し、複数名の評価者により学校関係者評価を行う。

- (1) 評価項目（本校の全教職員が意識して取り組むことができる具体的目標）を設定する。また、学校関係者評価実施前に、当該評価項目について本校において自己点検・評価を行い、4段階の取組評価を付した上で、評価者に依頼する。

(A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない)

<評価項目>

①カリキュラム・ポリシーに基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
②成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。
③ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。
④教育組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。
⑤学生支援における重点目標

- (2) 各評価項目について、評価者は評価を行い、その結果をまとめるとともに、取組評価を4段階で評価する。

(A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない)

3 評価方法

- ① 評価は、本校からの提供資料によるほか、授業、学校行事等の見学、校長・教職員及び学生等との面談により行う。
- ② 本校が「学校関係者評価票」（別紙）の各評価項目について、資料等を交え、評価結果及び取組状況等を学外評価者に説明する。
- ③ 学外評価者が、上記を基に、以下のとおり評価を行う。

(1) 各評価項目の「取組状況・評価に対する意見等」・「優れている点、継続し

てほしい点」・「問題点・要望等」・「その他意見等」を記述する。

(2) 取組評価については、次の4段階で評価する。

(A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない)

- ④ 評価者の互選による代表者は、各評価者の学校関係評価票を取りまとめ、学校関係者評価報告書にて「評価結果(総評)」を作成する。

4 学校関係者評価協議会構成員

①学外評価者

(1) 卒業生

鈴木 幸代 (昭和60年3月医学部附属看護専門学校卒業生)

(2) 学校の専門分野における関係団体・関係業界

浅野 輝美子 (日本大学病院キャリア開発支援室)

(3) 地域住民

西井 陽子

(4) 保護者代表

三浦 美紀

②日本大学医学部附属看護専門学校教職員

石原 寿光 校長

大橋 初枝 副校長

木根 久江 主事

今野 千春 教務主任

渡邊 厚子 教務副主任

武内 典久 医学部事務長(令和3年12月13日付け医学部経理長に異動)

飯田 邦博 医学部教務課特任課長

5 協議会開催日時

第1回 令和3年10月19日(火) 15時30分～16時30分

第2回 令和3年12月9日(木) 15時00分～15時50分

6 評価結果(総評)

自己点検・評価結果については学外評価者の総評と5評価項目が合致、1評価項目が自己点検・評価結果より高く評価されており、適切であるとの結論に至った。

取組内容については、前年度、コロナの影響により見直し修正した学習・実習要項や授業内容・方法をもとに実習場との連携をとりながら学習環境の調整を行えている。

コロナ禍において、学業面や生活スタイルの変更を余儀なくされ不安に駆られる中、国家試験で100%の合格率を打ち出したサポート体制は在校生にとっても大きな支えになるものと考えられ高く評価できる。

また、制限される臨地実習で経験できる看護技術は少ないため、卒後も継続して技

術習得ができるよう、個人の技術到達度記録をポートフォリオとして就職時に活用できるようにすることで、学生の不安解消、さらには安全な看護が提供できる人材の育成へと繋がっている。

過密な業務体制の中、このような成果を上げ、次年度は人員増加の枠が認められたため、さらなる柔軟な教育活動の創意工夫を期待している。個々の専任教員の資質の向上はもとより、教員組織の適切性の検証に努めていただきたい。

以 上